

夏の自然観察路

三宅 隆



オオフトオビドロバチ



ドロバチが蓋をした竹筒



ヤブヤンマ産卵



モリアオガエル卵塊



イモリ



キビタキ

ミュージアムの自然観察路（生物多様性のみち）もオープンして5ヶ月、毎月第一月曜日の草刈りなど皆で実施され、整備された自然観察路では、色々な生物が観察されています。

ドロバチのマンションには、フトオビドロバチ、ミカドジガバチなどが竹筒の中にせっせと青虫を運び込み、泥で蓋をする様子が観察されています。

カブトムシの繁殖場では、いくつものカブトムシが生まれました。

トンボを呼ぶ池では、こちらの思惑通り、ヤブヤンマやオオシオカラトンボがやってきて産卵しています。このプールにはモリアオガエルも産卵し、オタマジャクシが観察されています。

イモリの集まる水路では、多い時には10頭以上のイモリが観察され、ツチガエルも見つかりました。

NPOの昆虫専門家は、毎日のように、トラップを仕掛けたり、ビーティングを行ったりして、どんな昆虫がいるのか、採集して標本とリスト作りをしています。

植物は、4月から5月にかけて3回にわた

り、NPOの杉野孝雄さんの指導の下、どんな植物があるか調査リストを作りました。その結果、現在のところ、樹木105種類、草本115種類、シダ類31種類が確認されています。

今後、秋の調査をしていけば、もっと増えていくものと思われます。

すでに、キノコも名前はわかりませんが、たくさん生えてきています。

野鳥では、留鳥のウグイスやヤマガラ、シジュウカラなどが観察され、夏の渡り鳥のキビタキやオオルリが囀り、県鳥のサンコウチョウの声も聞かれました。

哺乳類では、イノシシの他に、タヌキ、ハクビシン、ノウサギの糞や痕跡が見つかっています。

これら多くの生物によって、この観察路の生物多様性が保たれていることを痛感します。

現在、ここの生物を説明するプレート作りをミュージアムより依頼されており、季節に応じて随時取り換えられるようなプレートを作り、設置中です。

今後、この観察路をどのように活用していくのか、皆で検討して、すこしでも多くの来館者に見てもらいたいと考えています。